

2024年
7月1日
発行

Vol.
13

JAJA

Support Locals

REPORT



NPO法人 リンナップジャジャ
LINK UP JAJA

・さをり織り研修 ・アトリエSUYO ・大阪チャチャチャバンド ・JICA協力隊紹介 ・楽器を寄贈 ・会員限定コンテンツ



昨年の4月から毎週月曜日と水曜日、セントアン県内の特別支援学校で知的障害を持つ卒業生たちととさをり織りに取り組んでいます。そのエッジヒル特別支援学校で長年教師を務めているタマラ・ローレンス先生が、大阪市都島区にあるNPO法人さをりひろばが行う「さをり国際ボランティア大学」の研修生に選ばれ、今年3月末から2週間日本でさをり織りを学びました。研修中にはさをりひろばの障がいのあるメンバーたちと一緒に満開の桜の下でお花見を楽しんだり、たこ焼きを作って食べるなど楽しい取り組みもあったそうです。さをりひろばさん、ありがとうございました!!!

NPO法人さをりひろば



手織り工房体験 豊崎長屋



ジャマイカ人の さをり織り研修

in
大阪

さをりひろばって?

「NPO法人さをりひろば」は、さをり織りなどを通じて国内外で障がい者・高齢者を含む市民協働参画支援や、さをり織りの指導者の養成や育成・さをり織りの啓発など行っています。現在、国内外で400人の会員が活動しています。

どのような活動をしていますか?

さをりの普及活動、年一回の会員大会、震災などの被災者支援、障害がある方の活動を支援する講習会、展示会などを実施しています。その他、生涯学習フェアやがん支援、市民参画活動などを行っています。

海外との繋がり?

現在40ヶ国以上で多様な活動を展開しています。2008年から「国際ボランティア大学」として外国の研修生を受け入れており、真言宗系の仏教の宗派の一つである真如苑から助成を受けて活動を続けています。

今回のタマラさん受け入れについて印象的なエピソードなどを教えてください。

2週間あっという間に過ぎていきました。ハードな研修の中で、さをり豊崎長屋のメンバーのお仕事を見に行くため、石切神社に出かけたときのことです。「こどもマルシェ」という子どもがお店を出してお仕事体験をするという中に参加しました。ゲームをしたり、曲に合わせて踊ったり、さをりの手ほどきを見学したりしました。楽しかったのか、帰りの車の中はノリノリで研修生同士歌い合った楽しい1日でした。



アトリエSUYO



NPO法人LINK UP JAJAがジャマイカで取り組むさをり織りは、大阪にあるさをり織りスタジオ／障害者の就労支援事業所「アトリエSUYO」の甚大なサポート無しには実現していません。当法人代表・永村がジャマイカでさをり織りに取り組むと決めて、アトリエSUYO代表の伊藤寿佳子(すよこ)さんにご指導をお願いしたところ「よっしゃ、やろう!」と快諾して頂き、短い時間でたくさんの事を教えて頂きました。ジャマイカ渡航後も織り機や道具、糸の寄付など多大なるご支援を頂いており、全力・全面的サポートを頂いています。さらにはこの度、NPO法人LINK UP JAJA協賛プランの第一号となって頂きました。本当にありがとうございます!

アトリエSUYOについて教えてください。

・伊藤さんがさをり織りに出逢ったきっかけ

1980年代後半バブル時代にテキスタイルデザイナーとして勤めていた大阪船場の繊維会社より半年間限定のイタリア留学体験する幸運に恵まれ、フィレンツェの専門学校へ。その学校の「手織りの授業」でグラツィエラ・ガイドッティ先生と出会う。工業生産では出せない手作業の魅力を知って帰国後、手織りの糸を購入出来る所を探していて、大阪のさをり織りの教室を訪れ、城みさをさんのさをり織の哲学に衝撃を受けて、次の週から教室に通い始めました。

<https://www.suyo.info/about.html>

・SUYO誕生の歴史

さをり織の「失敗は無い、楽しむ事が一番」の表現活動に夢中になり、習い始めて半年後、さをり織教室のスタッフに転身。間もなく結婚と出産を経験し、一時期子育てに集中。しかし、オッパイを飲んだらよく寝る子だったので、自宅のキッチン横の狭いスペースでご縁あった生徒さん3名で教室をスタート。それがアトリエSUYOの誕生です!グループ展を主催したり、岡山の織仲間と海外のイベントに参加したり少しずつ活動を広めていきました。その後、さをり織本部といくつかの法人との連携で大阪府指定事業活動を経て、2022年2月「一般社団法人 惣」として独立させていただきました。

・製品紹介

今のアトリエSUYOは、土の成分で染められる安全でナチュラルな「ベンガラ染」で織糸や布を染めた物を中心に製作しています。みんなで創作した外袋の中に北海道の小豆を入れた健康グッズの「小豆枕」とコットンや自然布など色んな糸で曼荼羅に織りブローチやコースターに仕上げる「丸織」を活動の中心にしています。

・障害者との関り

さをり織の会社勤務時代、週2回障がいを持った子供とお母さんが一緒に通所するクラスの担当となり、手織りを通して障がいを持った方々と自然に関わる様になりました。親子一緒に通われてきますが、教室に入ると別々に分かれて手織り作業に関しては自立して行うシステムです。マニュアルは無く、出来る事を少しずつ増やして行く方法で、子供達の方が既成概念にとらわれずに自由な表現が出来る所がとても魅力的でした。ある時ふと気がつくと、重度の知的障害の方が経糸を作る作業が全て出来る様になっていたりして、少しずつの成長の積み重ねが障害当事者ご本人と私の大きな自信になっていきました。息を合わせながら何が出来るかを見つけていく作業は、とても楽しかったです。教室を卒業して、親子で自分達の作業所や工房を持たれて自立して行かれる方もいました。この後ご紹介する「大阪チャチャチャバンド」のメンバーとの出会いは、この初期のさをり織教室で出会いました。



大阪チャチャチャバンド

・バンド誕生の歴史

1998年の長野冬季オリンピック後、パラリンピックと同時開催されたアートパラリンピックをお手伝いしました。障がいのあるステージ出演者を歓迎するパーティーがあり、そのために結成した障がいあるなし関係ないバンド(現:大阪チャチャチャバンド)の初演奏がとても楽しくて、その後26年!まだまだ演奏活動しています(笑)。そして、大阪で開催されている障がいあるなし関係なしの人気野外音楽フェス「つながらーと」の会場でNPO法人LINK UP JAJA代表の永村夏美さんと出会いました。



・過去の出演

2001年 イギリス大英博物館BPシアターで演奏

2010年 アメリカNY・ワシントンDC演奏旅行を実施、NYモーガンスタンレイ子供病院ステージでの演奏、ワシントン高校講堂にてワークショップと演奏を行う／大阪府障害者芸術コンテスト音楽部門パフォーマンス知事賞受賞

2011年 震災復興支援イベント「織流」を企画・出演／韓国ソウル・カンドンクリフ区民会館にて演奏

2013年 NHK番組バリバラ「がんばらない団」に参加

2015年 「つながらーと(大阪城野外音楽堂)」出演／ゴールドコンサート in 関西審査員パフォーマンス賞受賞

2022年 道頓堀ミュージアム並木座とコラボプレゼン大会にて大賞&オーディエンス賞W受賞

2023年 第一回チャチャチャまつり@道頓堀ミュージアム並木座オンラインコンサート主宰／大阪チャチャチャバンド主宰／お花見道頓堀クルーズ 企画

2024年 第五回つながらーと出演

お花見道頓堀クルーズダイジェスト動画

<https://youtu.be/dM-2q8moGYE>

・代表SUYO(寿佳子)さんが昔レゲエファンだった?!

幼馴染がレゲエ大好きで、大阪初のレゲエのお店「リディムポッシー」オープンをお手伝いしました。お陰で20代前半はレゲエのコンサートやイベントに入り浸りレゲエ仲間とインド旅行に行ってから、バックパッカーの旅にハマりました。初のジャパンスプラッシュ(琵琶湖畔)の時はスタッフとして参加しました。ジュディ・モワット、シュガー・マイノット、フレディ・マクレガーさんが琵琶湖就航の唄を日本語で歌ってくれました。その時の仲間が栩野ジュンちゃん(キングストンでラブリッシュを経営)で今も大親友です。

・ラブリッシュゲストハウス

ジャマイカ初心者の方には日本人が経営するゲストハウスがおススメ!首都キングストンのメインストリートからすぐの好立地で、ジャマイカ在住歴が長くレゲエに精通したオーナー、アトリエSUYO伊藤さんの長年のご友人であるJunさんがジャマイカ事情について教えてくれます。

<http://labrishguesthouse.com/>



手織り染体験工房 <アトリエSUYO>

代表 伊藤寿佳子

〒537-0024 大阪市東成区東小橋1-2-16

tel. fax 06-6972-5855

cell 090-1716-4536

<http://www.suyo.info>



(旧称・青年海外協力隊)
JICA海外協力隊 **林あゆみ** さんに聞く

ジャマイカの障害を持つ子どもたちって どんな風に暮らしているの？

永村: 私も現役のJICA海外協力隊ですが、「誰でもなれるんですか?」と聞かれることがあります。

林: 受入国の要請に応える形で日本からボランティアを派遣するため、国によって募集している職種が異なります。学歴や職歴に条件がついている要請もありますが「高卒、社会経験3年程度」など条件が比較的緩い場合もあります。応募中の要請内容はJICA(国際協力機構)のホームページから見ることができます。

永村: 作業療法士ってどんな仕事ですか?交通事故に遭った人のリハビリをする理学療法士とはまた違う仕事なんですよ?

林: 「作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である」と定義されています。例えば障害を持つ子どもが家庭や学校、地域で生活する上で生じている難しさや生きづらさを軽減するため、原因を究明して本人の作業の仕方や環境を調整することはもちろん、周りの大人の関わり方の工夫を提案することも作業療法士の仕事のひとつです。

永村: 私はジャマイカ4Hクラブという、農業を通して青少年育成に貢献するNGOに派遣されていますが、林さんの現在の配属先(職場)はどんなところですか?

林: 私がボランティアとして働く地域リハビリテーションセンター(以下CBRJ)は40年ほど前にジャマイカ人医師が立ち上げたNGOで、本部はセントキャサリン県のスパニッシュタウンにあり、私はマンチェスター県のマンデビル支部にいます。CBRJは、障害児が小学校に就学する前の段階から早期に介入し、発達を促進して普通学校または特別支援学校への統合に備えるための支援を行うことを目的としています。また、子どもが親に愛されて家庭内で健全に育成できるよう、親への働きかけを行うこ

とを目指しています。私はCBRJに派遣される初めてのJICA海外協力隊で、コロナ渦前の2019年に派遣されましたが、コロナウイルス蔓延の影響で2020年に帰国となり、2023年5月ようやく再派遣が叶いました。

永村: どのような障害を持った子どもたちが通っていますか?

林: 対象年齢は2歳から12歳で、自閉症など重度の知的障害、オムツ交換や食事介助が必要な重度の身体障害を持つ児童などです。CBRJは本来、障害児が普通校や特別支援学校に移行するためのプログラムですが、実際は受け入れ先のない子どもの受け皿となっており、12歳を超えてもセンターに来ている児童もいます。普通校ではトイレや食事が自立しているというのが入学条件だそうですが、CBRJに通い続けている子どもは普通校や特別支援学校に通う障害児に比べると介護度が高いです。

永村: 特別支援学校から普通校の高等部に編入する学生もいますが、ごく稀です。ジャマイカでインクルーシブ教育は進んでいると感じますか?

林: 新しい動きとして、CBRJがあるマンデビルの公立学校に特別支援クラスが設けられました。ジャマイカは国連の障害者権利条約を批准しているので、その流れを受けて教育省もインクルーシブ教育の方針を取っているのだと想像します。特別支援クラスに通う重度障害児は「シャドウ(影)」と呼ばれる補助員をつけて登校する場合があります。保護者が自費で補助員を雇うケースでは月額3万円から9万円と高額の負担になり、学校が一部負担する場合は月額15,000円程度になるそうです。補助員は特別教育の研修を受けた専門員ですが、一般教員よりも給与が低いため手数が少なく、保護者が補助員をリクエストしても半年や1年待ちということもあると聞きます。

永村: ここでもやはり、労働環境の不整備が教育の発展を阻みますね。

林: 近所に新しくできた普通校では特別支援クラスを設置しており、特別支援教員もいるようなので、4年前に比べると障害児教育の環境は良くなっていると感じます。とは言え、重度障害児が今でも置いてけぼりの存在であることは否めません。

永村: 私の配属先である4Hクラブは活動を行うための財源確保にいつも苦勞していますが、どこかの配属先でも似たような話を聞きます。CBRJも厳しいですか？

林: 設立当初は財団から資金提供を受けていたのですが、現在は主に教育省を通じてジャマイカ政府から資金提供を受けています。慢性的な財政難で、職員の労働環境がなかなか安定しません。職員給与の未払いが原因で、職員のほとんどが仕事に来ない時期があり、大変でした。

永村: ジャマイカでは昨年、教育省が教員の給与を長期間に及んで支払わず、教員の大量離職が相次ぎ、社会問題となりました。私が障害当事者とさをり織りに取り組んでいるセントアン県の特別支援学校でも、深刻な教員不足が続いています。

林: 先日やっと支払われたそうですが、CBRJの職員は給与を3カ月滞納されていました。私はJICAボランティアという立場で安定した状況にあるだけに、苦しい状況に置かれる同僚を見ていると何もできない自分が辛いです。職員のほとんどが最低賃金ラインだそうで、日本より高い物価を1週間13000円でどうやって生き抜いているのか、本当に疑問です。

永村: ジャマイカは物価が高く、賃金が低い。自分の国が大好きだけれど、安定した生活を得るために海外移住を決める人も多いです(英国に40万人、カナダに30万人、米国に110万人以上のジャマイカ人が暮らしている。ジャマイカ国内の人口は290万人)。ところで、CBRJへの通所は無料ですか？

林: いいえ、保護者から利用料を取っています。ですが、1学期およそ12000円の利用料を払えず、子どもがセンターに通えなくなるケースもあります。財政難の対応策としてCBRJは利用料を15000円に値上げすることを検討していますが、保護者にとっては子どもを通所させるハードルが上がります。

永村: 現場ではどんな仕事をしていますか？

林: 理想の働き方としては、子どもが成長できる関わり方や介入方法を同僚や親と一緒に考えて実践し、発達支援の知識を広めることですが、人手不足のために子どもの介護を手伝うこともあります。通常なら2、3人の大人で関わるのが妥当だと思いますが、6人の重度障害児を1人で見なくてはいけない状況で、子どもをストラップ付きの椅子に座らせてしまうことがあります。これは日本では拘束と捉えられますが、同僚は安全管理という認識で行っているのです。同僚が抱える難しさ、大変さも分かるので、こちらもどの程度伝えるべきか迷いつつ、言葉を選びながら語り掛け、拘束しないでいい方法を見つけるために試行錯誤しています。



永村: もしもCBRJがなかったら、重度障害を持つ子どもたちはどこへ行きますか？

林: CBRJに來ているのは、一般の保育園や私立幼稚園の特別支援クラスに受け入れを拒否された子どもたちです。私立幼稚園の利用料は1学期6万円と高額で、それを払えない親にはそもそも選択肢がありません。実際、CBRJの利用料さえ払えない子は家で過ごすしかありません。CBRJを経て一般の学校に編入した成功例もありますが、これは保護者に学校のリサーチや入学準備のアセスメントを行う時間的余裕や知識、経済力があるかにも左右されます。

永村: やりがいや楽しさについてはどうですか？

林: 仕事は大変ですが、子どもと関わるのは面白くてやりがいを感じています。私は現地職員のように子どもを叱ることが出来ないで、子どもたちにとって他の大人とはちょっと違う、独特な存在になっているようです。他の大人にははしないいたずらをしてくることもあります。「この人は話を聞いてくれる」と思っているの、何かと求められることが多いです。文化や言葉の違いに苦労する事もありますが、ほんの少しでも変化が見られると嬉しいですね。

永村: 林さんを慕って子どもたちがまとわりついて来る姿が目につきます。カルチャーの違いについてはどうですか？私はジャマイカ歴が長いですが、それでも苦労する場面が多々あります。

林: 外国から来たボランティアということで気を遣ってくれる場面も多いですが、職員との意思疎通に苦労する時もありますね。鋭い観察力や高いモチベーションを持つ職員もいるものの、不安定な労働環境にあるため、人によっては仕事への熱意が奪われてしまうことがあるかもしれません。とは言え、過酷な条件にも関わらず頑張って仕事に通っている職員は本当にすごいと思います。

永村: 最初に赴任してから同僚や子どもたちに変化はありますか？

林: 子どもの成長には様々な要素が影響し、子ども自身の育つ力にもよるので、自分がどれだけ貢献できたかを言い切ることは難しいですが、子どもたちは確実に成長しています。例えば、じっとしていることが出来ず、いつも部屋の中を走り回ることが問題視されていた子がいたのですが、来る日も来る日も外遊びを重ね、彼の体が発する「動きたい!」という欲求を満たしてあげると、本人の行動が少しずつ落ち着いてきました。子どもが毎日楽しむ様子を見て、同僚が保護者にその子専用のボールを持参するように働きかけてくれました。

永村: ジャマイカの学校では、とにかくじっと座って話を聞いていることが大切という風潮があります。同僚は林さんのアプローチと成功例からこれまでと違う視点を学び、新しい方法を実践してみようと思えたんですね。

林: 以前は同僚に自分の考えがうまく伝わらず、自分が良いと思うことを自分ひとりで実践する時期もありましたが、今では同僚と支援方法について話し合える関係になっています。「違うな」ということでも相手を否定しない発言を心掛け、協働体制を模索しているところです。親御さんとのコミュニケーションも増やしていきたいです。

永村: JICAのスタンスとして、ボランティアを派遣する団体の持続可能性を重視しています。CBRJは運営面で厳しい時期もありそうですが、自分がやっていることが未来に繋がるか、という点ではどうですか？

林: 任期が限られていますし、状況が安定しない中、現状を踏まえて働きかけたことでも、その通りにはならないのだと思います。だからこそ、任期終了時「一緒に過ごせて良かったな、出会えて良かったな」とお互いに思えるように、今自分に出来ることを一生懸命やろうと思っています。子どもが家で私のことを話してくれることもあるみたいで、先日保護者に「私11月に日本に帰るよ」と伝えるとすごく残念がってくれました。任期終了後もジャマイカに会いに来ようと思えるし、人生の中で彼らと繋がってけたらいいなと思っています。

永村: 以前JICA職員が「ボランティアは種まきをする存在。芽が出て実を収穫する作業は現地の人にやってもらった方がいい」と話したことを思い出しました。林さんの撒いた種が実となり収穫される様子を、将来一緒に見たいですね。貴重なお話をありがとうございました！

JICA海外協力隊
<https://www.jica.go.jp/volunteer/>



Profile

林あゆみ JICA海外協力隊／作業療法士

好きなジャマイカの食べ物:

パミー(キャッサバ粉を固めた硬いパンのようなもの)、グリーンバナナ、ヤムイモ、アボカド、パイナップル

趣味:

ダンス、食べること、新しいことを知ること、旅行

座右の銘:

一期一会、keep trying

楽器を寄贈

ジャマイカの学校に



2022年にレゲエプロダクション「カエルスタジオ」がレゲエの日設立のためにクラウドファンディングを行い、集まった寄付金の余剰金を利用してジャマイカの学校に楽器を寄贈するプロジェクトが行われました。およそ100万円をNPO法人LINK UP JAJAが預かり、ジャマイカ現地で学校との調整、楽器の調達、寄贈を担当し、2023年1月からおよそ半年をかけてプロジェクトを完了しました。レゲエアーティストRomain Virgo出身校であるAabuthnott Gallimore High School(アボットナット・ギャリモアー高校)は楽器寄贈の第一号で、その後Brown's Town High School/ Ferncourt High School/ York Castle High Schoolにも寄贈し、セントアン県内の高校4校に楽器を寄贈することができました。日本から届いた楽器をジャマイカの高校生が受け取る様子はジャマイカの地元新聞The GleanerとJamaica Observerで記事になり、二国間のポジティブな交流が取り上げられました。



実は、カエルスタジオとNPO法人LINK UP JAJAを繋げたのは、日本最大級のジャマイカフェスティバル「JAMAICA FESTIVALレゲエ&キューブ」通称「ジャマフェス」の主催者でした。その方から「ジャマフェスの出店者で売上金をジャマイカに寄付したい方がいるので、楽器寄贈プロジェクトを引き続き行いたい」とご連絡を頂き、歓喜の舞!先日、寄贈校第一号であるAabuthnott Gallimore High Schoolにサクスを寄贈させて頂きました。学校の音楽部顧問は「今は金管楽器をあまり持っていないけれど、他団体からの中古楽器寄付なども活用してブラスバンドを作りたい」と話しています。今流行りの音楽はコンピューター音源がメインですが、古き良きレゲエバンドが若い人たちにもサポートされ、ミュージシャンを目指す若者が増えるきっかけになると嬉しいです。売上金全額を寄付してくださった株式会社光住さま、株式会社いわもと工務店さま、ご縁を繋げてくれた「ジャマフェス」に心からお礼申し上げます。NPO法人LINK UP JAJAはこれからも日本とジャマイカの繋がりを広げる活動を続けていきます。

ジャマフェス @jamafes
いわもと工務店 @sotawoodwork
光住設 @hikari10.seikun0814

NPO法人LINK UP JAJA

JAJA会員さん大募集！

NPO法人LINK UP JAJAを支えてくださっている皆さん、本当にありがとうございます。

お陰様で、2020年12月に発足したNPO法人LINK UP JAJAは2024年4月1日を以って5年目（令和6年度）を迎えました。法人の活動は、皆さんから頂く年会費や寄付金を利用して運営しています。

賛助会員の年会費は年間3,000円です。賛助会員はいわゆる「応援会員」さんです。会員の皆さんには年に4回会報「JAJA REPORT」を郵送し、法人の活動についてご報告しています。

NPO法人LINK UP JAJAの年度は毎年4月から翌年の3月で、年会費は銀行振込やクレジットカード決済でも納めて頂くことができます。ジャマイカでの取り組みを続けていくため、また、取り組みを発展させ持続可能な形にしていくために、皆さんの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

クレジットカード決済で楽ちん！Syncable

NPO支援のプラットフォームSyncable（シンカブル）では、クレジットカード決済で会費を納めて頂ける他、自動更新を選んで頂くと毎年度自動的に会費を納めて頂くことが出来ます。NPO法人LINK UP JAJAの年会費（3,000円）の引き落とし日は毎年3月1日です。単発の寄付をして頂くこともできます。

<https://syncable.biz/associate/LINKUPJAJA>

 Syncable



～会員登録の流れ～

①サイトにアクセス



②「年会員になる」を選択



③必要事項を記入



④お支払い
会員登録完了！



NPO法人LINK UP JAJA

コロナ禍真ただ中の2020年、ジャマイカを支援するため立ち上がる。コロナによる経済的被害で失業や収入減に苦しむ人々を「フェアトレード事業」という形でサポート。2022年に「障害者の居場所づくり事業」を立ち上げ、ジャマイカの地域社会に障害者の働く場や日中活動の場を作ることを目標に活動している。

NPO法人LINK UP JAJA(リンコップジャジャ)
大阪府大阪市鶴見区鶴見2丁目22番5-603号
info@linkup-jaja.org
WEB <https://linkup-jaja.org/>

NPO法人LINK UP JAJA 

リンコップジャジャ 

  @LINKUPJAJA